

# ～敬老の日～ 100歳おめでとうございます

大正10年4月1日～大正11年3月31日にお生まれになった方々です。  
これからも、健やかに過ごされますよう心からお祈りいたします。

- (勸修学区) 今村 ふみさん、杉浦 初江さん
- (音羽学区) 江島 鶴之助さん、永原 きよさん
- (安朱学区) 井上 富美枝さん、森本 静子さん、越智 梓さん
- (陵ヶ岡学区) 石井 和枝さん、藤川 明子さん
- (大宅学区) 柳澤 はち子さん、藤井 ユキ子さん、  
山本 千代子さん、嶋田 峰子さん
- (山階南学区) 野崎 アキさん、佐藤 英子さん、  
岡田 哲男さん、上田 春男さん

- (百々学区) 北川 健一さん
- (大塚学区) 清水 ルイさん、宮本 茂さん
- (小野学区) 山本 スエノさん、松村 小治郎さん
- (音羽川学区) 加藤 キヨ子さん、片桐 文子さん、  
北村 ユキさん、檀林 タヨさん
- (西野学区) 茂田 ゆり子さん、段田 幸子さん

※公表のご了承をいただいた方のみ掲載。(8月15日現在)

問合せ 区健康長寿推進課 健康長寿推進担当 ☎592-3222



## 『救急車を呼ぶ?』 『病院へ行く?』

判断に迷ったら『#7119』に相談を!!

急な病気やけがをしたとき、救急車を呼んだ方がいいか、今すぐ病院に行った方がいいかなど、判断に迷うときは「**救急安心センターきょうと (#7119)**」で電話相談ができます。

看護師が病気やけがの状況をお伺いし、助言や案内を行います。



- ◆携帯・スマートフォン・プッシュ回線からは【#7119】
  - ◆ダイヤル回線・IP電話などからは0570-00-7119
- (いずれも相談料不要。通話料のみ相談者負担。)24時間365日対応!!



「呼吸をしていない」、「脈がない」、「意識がない」、「大量に出血している」などの場合は、ためらわず119番通報を!!

問合せ 山科消防署 ☎592-9755

## やさしいコラム ～コロナ禍に見る高齢者支援～

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で生活様式が大きく変わる今、高齢者支援の在り方はどう変化しているのでしょうか。山階地域包括支援センターの白山センター長にお話を伺いました。



### コロナ禍で相談内容や活動に変化はありましたか?

高齢者への訪問活動は電話や短時間の訪問に切り替えて行っています。運動や交流の場がなくなったことで、それに代わる介護サービスを求める声や、ワクチン接種に関する相談、長引く自粛生活の影響による認知機能の低下を心配するご家族の声も聞きます。地域包括支援センター内でも、介護が必要な前段階である“フレイル”になる方が増えることを心配しており、区役所と連携して対策をとっているところです。

### 区民のみなさんにメッセージをお願いします。

フレイルとは介護が必要となる前の「虚弱」な状態のことです。



山科区の高齢者支援は地域の力に支えられています。心配なこと、不安な時に相談できる場所があることを知ってほしい、どうしたら元気に過ごしていけるか、一緒に考えていきましょう。

地域包括支援センターでは、介護が必要になった時だけではなく、介護予防に関することなど、様々な相談に乗っています。介護や日々の生活でお悩みのことがあれば、まずは最寄りの地域包括支援センター(高齢サポート)にご相談ください。

各地域の地域包括支援センター(高齢サポート)の情報はこちらから →



問合せ 区健康長寿推進課 健康長寿推進担当 ☎592-3222

【#7119】  
【ダイヤル回線・IP電話などからは0570-00-7119】  
(いずれも相談料不要。通話料のみ相談者負担。)24時間365日対応!!



「感染対策のために席数を減らして書店スペースを増やしたのですが、ブックカフェになったことで、本を楽しく来店される地域の方との新しい出会いが生まれています。将来的には、本を題材に語り合う読書会など、ここで地域の人と利用者がつながるイベントもやっていきたいと思っています。本好きの人にはぜひ来てほしいです」とのこと。

このように「からだね」では、新型コロナウイルス感染症の流行で人の集まる場が作りにくい中であっても、どうにか山科のまちに地域の人の出会いと活躍の機会を作りたいと、新しいチャレンジに取り組み続けています。障害や疾患のある働く人たちが、地域の中で役割と自信を見つけていく場所、カフェトライアングル。ぜひ一度立ち寄ってみてください。

【#7119】  
【ダイヤル回線・IP電話などからは0570-00-7119】  
(いずれも相談料不要。通話料のみ相談者負担。)24時間365日対応!!



第74回 みんなで「山科区基本計画」に取り組もう!!  
【連載】区民活動きずなリレー  
地域の役に立ち、「ありがとう」と言われる場所を作りたい  
社会福祉法人ミッショからしだね「カフェトライアングル」



「カフェの名前である『トライアングル』は、実は開店当時は深い意味はなくつけたものでしたが、後で振り返って考えてみると、就労支援において、施設の利用者、カフェのお客様、地域の皆様を大事にする『三方よし』のイメージがあった気がします」とのこと。

「からだね」は地域との関わりをとても大切にしており、「地域の方が、障害や疾患のある方のことを身近に感じてもらえるお店」を目指して運営されています。

しかし一方で、鍋島さんは、そういった背景をお客様に伝えることにこだわりません。

「うちが就労支援施設だということを知るのには、後でいいんです。地域の人が、意識せずに来て、ああ、そういう場所やたんやね」と後で知る、というくらいでもいいんです。私たちの施設の利用者には、障害や発病の過程で、誇りや自信が傷ついている人も多い。そんな人たちが、お店での仕事を通じて、地域の人に「ありがとう」と言われる。頼りにしてもらえ、それがものすごく力になるんです」と思いを語ってくださいました。

カフェトライアングルは、2006年に開店してから14年の間、地域の人のための憩いの場として親しまれてきましたが、新型コロナウイルス感染症の流行で2020年4月から一時、営業を自粛してしまいました。しかし2021年3月には、書店スペースを併設し、ブックカフェとしてリニューアルオープンしました。

「感染対策のために席数を減らして書店スペースを増やしたのですが、ブックカフェになったことで、本を楽しく来店される地域の方との新しい出会いが生まれています。将来的には、本を題材に語り合う読書会など、ここで地域の人と利用者がつながるイベントもやっていきたいと思っています。本好きの人にはぜひ来てほしいです」とのこと。

このように「からだね」では、新型コロナウイルス感染症の流行で人の集まる場が作りにくい中であっても、どうにか山科のまちに地域の人の出会いと活躍の機会を作りたいと、新しいチャレンジに取り組み続けています。障害や疾患のある働く人たちが、地域の中で役割と自信を見つけていく場所、カフェトライアングル。ぜひ一度立ち寄ってみてください。

【#7119】  
【ダイヤル回線・IP電話などからは0570-00-7119】  
(いずれも相談料不要。通話料のみ相談者負担。)24時間365日対応!!

